



編集後記 全員野球（？o？）

大谷翔平、山本由伸、佐々木朗希が所属するドジャースと今永昇太、鈴木誠也を擁するカブスのメジャーリーグ開幕戦が東京ドームで開催され大変な盛り上がりを見せました。野球が好きな日本人って多いですね。

野球の好きな中高年男性の中には、熱が入ると仕事上でも野球用語をたとえに使う人がいます。2021年9月、岸田前総理が自民党の総裁選挙の決選投票で勝った時、「**全員野球で、自民党が一丸となって・・・**」なんて野球用語を交えた発言がありました。ところが今は野球人口は減ってきており、そんな野球用語を使ったスピーチが伝わらない人も増えています。

そもそも、「**全員野球**」って不思議な言葉ですよ。(^_~)



「全員バスケ」、「全員バレー」、「全員ラグビー」なんて言葉は他の球技では聞いたことがありません。

でも野球は攻守交替があるし試合時間も他の球技に比べて長い、ある意味特異なスポーツです。

僕が少年野球のコーチをしていたずいぶん前のこと、投手が全然ストライクが入らずに四球を連発していた時、外野を守っていた子が地面にお絵描きしていたことがありました。攻撃中ベンチで打順を待っている子どもたちが試合と関係のない話でしゃべっていると、「ちゃんと応援せえ」なんて怒ったこともありました。そしたら、慌てて子どもたちはこんな歌でバッターボックスの選手を応援します。



大きなホームラン ♪ ああ天国の じっちゃんばっちゃん ♪

たまげて 落ちてきた～ ♪ 大きなホームラン ♪ (「大きな歌」のメロディで)

のんきなチームでした。そもそもコーチの中に僕がいる時点で、強いチームなわけはないんですけど。

こんな緩い歌で応援できるような競技だからこそ、「全員野球」という引き締める言葉があります。

でも野球に興味のない人も増える中、「全員野球」って言ったところで全員に伝わるとは限りません。(+_+)

自分の言葉が相手にどれくらい伝わっているかを考えないと、コミュニケーションは成り立ちません。



人口減少と選択するスポーツの多様化が進み、ますますの野球人口の減少に強い危機感を持っている野球界は、王貞治氏を中心に「**BEYOND OH! PROJECT**」と名付けるプロジェクトを発足させました。「**王貞治・大谷翔平を超える世界的ヒーローを生みだそう!**」を方針に掲げ、**野球界全体**で野球の裾野拡大に取り組むというものです。今これだけ盛り上がっている野球界ですら「人手(選手)不足」に真剣に危機感を持っています。ちなみに、そのプロジェクトを支援するのは、転職エージェントのビズリーチです。



この4月から雇用保険法が改正され、自己都合退職の失業給付(雇用保険の基本手当)を受給する場合の**給付制限期間**が現在の2カ月から**1カ月に短縮**されます。



法改正は危機的な人手不足に対応する為、「待たないでいいから働いて」というメッセージかと解釈しています。労働力人口はこれからも減少する一方。この先何もせずに人手不足が自然解消されるなんてことはありません。今のこの危機を会社全体で共有して、人手不足対応の為にできることをみんなで考えてはいかがでしょうか。



うちの娘の話で恐縮ですが、小学校1年生から野球をやっていた兄を追って少年野球を始めたものの、娘は地面に落書きしていた残念な側の選手でした。(>_<)

右下の絵は、巨人の松井秀喜選手がメジャーに挑戦するという年の年賀状(頁右上)に娘が書き添えたもの。

野球はずっとヘタクソだった娘ですが、その野球もギャグのセンスも父親似で、ごめんなさいです。m(_ _)m

それでも、娘は高校の3年間、野球部のマネージャーをやっていたくらいなので、

野球は楽しいものという思いは、彼女にも伝わっていたのかもしれませんが。

野球でなくとも、みんなが目的を共有して一丸となることには大きな意義があります。

「全員野球」も本当は嫌いな言葉ではないんです。我が家は全員野球好きなんです。^_-☆

